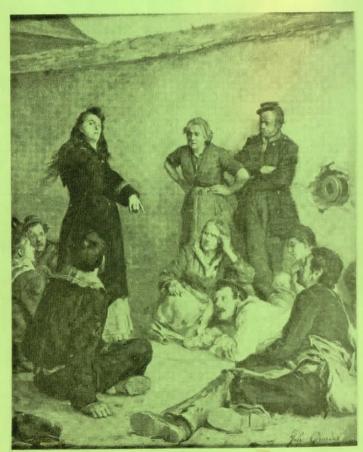
## リベルテール

6 月 号



Louise Michel parlant à un groupe de communards; peinture de Jules Girardet. Musée de Saint-Denis. Snark.

Libertaire Vol., V, No 7

無政府主義者の機関誌

テール定価一〇〇円(送料共)

和和和

堀

田 重 書

は 不 毛 で あ 6

C

人間 はそのゲロ 共で L こそがな 5

人 永間 遠 VC 荒涼たる平野 ح

で ある 事を保証 L I 5 とはしない

時空を突出 しつつ

鋭角的 に球体を志向 i

明日 \$ 笑うことが 酔 生夢死の証である

全ては無い事で有り

行為は垂直に移行する 事 0

は P 無機 的 な

火星の刻が近 でづき

堕天使 たる N V フ I IV から

三九 工 を VC 落 寸

して は I I

えい地

日 H 迎

から あら b n 3

反

社会をよごし、 るだろうか VC か あの く社 膨大な紙類の消費一つ取り上げ 会を害する基本で から国 公害を 会までおよそ まき散す ある。なんとなれ かを考え 選挙と名の 7 みたと つく ば \$ 0 Ł か ま は から VC ずす

て行 を通 故にあった て、しかも風の VC b っても子供 街に なる わせる 街 n 3 3 人の に散 4 すどころ ばら ح か 顔 時 の手に n 。チラシー枚にも 乱し、これを片附ける掃除に 6 まか では 達がと にあ には 、ど存知 り、ひかれて時には死ん 団地等 か 水 ある日 こま その たることも な たチラシはそ 50 たま れを取ろうと追っかけ、 す 0 あ 街に b るも ま焼却 る ボ VC 幸 ス ٠, ح 落 1 ばらまかれ ある。風に乗っ 0 5 その言 ちて 炉 へ投 が折 75 は 乗 ま 0 れほどの悪 0 げ込 街をよご だ 大 て遠く 葉の だ 方の に使 r ^ たくさん たチラシ ほ 幸 b S する どとく 方 5 人 n わ す、 っで、と りこま 思 た 幸 n 害 は ことが ばどの チラシ わ 6 F から は街 ず交 ラシ 0 0 又 ち 5 歩 CK 5 人 5 通事追 によってまを汚 ば 5 5 3 T 2 2

台も 害を取 シを止 とか \$ な の紙 0 5 n に車が は灯を あ 何 Ł 十台 める 5 いうことは議員 り締ることはで P であると云わ こみるより ことは ある。 \$ 何百 車の でき 往来 つきも P 明ら to n 7 きる筈である。 な 7 5 VC なる ある。選挙ともな 6 5 か ても仕方が ことかも 排気 である あ P か のも Ħ n T っその スを撒きちらし to あるま しれな 取 ら結果 を とれ P 6 上 締 北に上乗せ 3 す u h S どら 取し ば 5 車 0 T な \$ りか P のもらくするると ح

法は 設 0 それ から ある 唯一つ、破壊ある 和 や自由は 程、 。何度どん 現在 社会の あ り得 な ない。 選 0 仕組は みで 挙 をし あ 狂 3 っている。 7 B 破壊の 権 力者 とれ 後 0 あに を直す方 5 3 限り真

亚 亚 和 や自由を 求める者 は す へ一九 らく投票を拒 否せ 1 0

七四 . 三・十五 0 目

次

選

反

英国の社会主義者と語

る

2

大 英三郎 辰

4

3

Ξ

国家

ー覚え書その一ー

デーか

らの雑

戦

雑

記

構造主義と科学的アナキズム□

長五郎 14

次 バ妻 VC が五 ク 私 紹 0 1 来月 介し = > 宅、三時間 つった 、大杉 よ 内容 5 大社 は VC VC わ 0 いて \* to 研 に留学して懇談 、労働運 夫妻から聞い 学中 談 0 した。クロポ ジョン 動に た興 20 ,ロポトキ ン・クラン 味 T あ e 3 t イン、夫 話を C

主義 を科 7 木 工 書。 学 は 7 M 5 r ゲル では計 学的 だ 的 7 to u C 。一九世紀に住 方法 不要 0 VC た ス クスやプル 協論を で、 画 建 3 5 a され は、自 設できる可能性を 5 y 。然 必要に プクチ A た貧困 В n 由 1 L a 0 応じて で豊か 我 ンは考察し 4 2 r 0 1 . H 6 C k 欠乏が作 から は 5 c h 必 資 な 5 to i h 要な 信じら 本主義を 0 理 7 s i た N m n T 想 物 ような 5 社 7 <u>۔</u> بے から ス、バ から n n 会を考 P 得 T る 打 5 省 7 5 5 倒 5 る。 あ n 幣 現 克 ク 面 S L る 在 H 1 3 VC T 白 t 新社 新社 代 0 す ニン本 資 事 ح 3 会は 労 会 本 女 0

B では 1 to 7 ルク ズ 4 V L ではな 9 V T ットに対する暴行 ズ 4 3 5 と批 V ラ 1 判攻 11 V 4 ズム、の 0 P た。 V 1 4 ニン IV R V VC 木 1 F. 20 コ " ズ

病などに罹ると大会れられるとそれことない。また年金制をははまだまだ時間がっているわけではなっているわけではなっているわけではなっているわけではない。 一ら石炭 全く IJ はン 6 制 4 金制 す 大 あ 度 i フ 2 さ の立場に や電 ない て英国 り共 は自 n V P 5 古 をもち支配搾取 だろ とれ ば、まるで な P オクスフォー また年金制も発達しているかるとそれとそ悲惨だ。然しま 気 住 7 産 宅難に では、 主義ではない 米でも 9 0 である。所 いえる。医療費も無料 円位の手 スト と大金を必 実は ・ラブル 評 小学校 苦し がニカ 現在ポ な から T 4 スト が行 いる 会を 府 5 か の残骸 0 \$ 斗 2 カン から で、 T 下層 との萩原 T る。 起 要とす 支 中 月 から大学院 わ ストを助 5 は、失 とっ も三カ 萩原は らな れて 給 現在の 5 3 か 成 だが ٥ ک 3 0 は さ 5 L いるから、親ア 。 ブル あるが、 る 5 T 英国で し、一家 成 H 業 月 英国 資 だ。 の見 る限 n 立 る ソ 果なの した 3 B 1 1 幸 連 5 0 とみなさ 本主義国 5 日本 5 よう 続け 力 解に同 カ で から 7 ラー 親子の変 はそん エリ 無料 マル ゼ 1 国家資 B 2 では癌 だ。 に見 5 ネ 0 金制 大黒 感で はア 7 る 1 は 5 ス 7 0 だし V 理 1 根 ま な 克 T 1 P 1 度 るだ 意識 スト 由 は 本 で な 心 柱 5 ある 本主義 -10 ナ から 1 念族を起りなが変 行義配に倒 賃金 血識 キズ から y 7

- 2 -

が 破綻 し、かなり成功したと見られこれをなくそうとしたが成功 3 を 生じた。萩原の ١ 期待 してい る。 5 う価 値説や たケイ しなか った。一世 方法論の建 ンズ経済学も 設 を は す S で 5 興 味 VC TX

# 英三郎

れたの 地図 n + 0 自然石の t 四 ので 側 月十 で まれ 一十三通り 古田 国 す。 Ŧi. 表に古田 7 木田 君 日、春 お の墓参 独步 5 一種イ第九 李 B さんさん す。氏の を下 の墓の近く)同君の墓は の墓、裏に大正十四年 光君 元号から入 といたしました。(青の中を横倉兄に与えら 6 一種 口第 B + 生 (青山 一月 垣に VC 律 + 十五 n 囲 六 T 号 李 慕 to

古田 中 VC 初 同志諸君、おついて、然かに生きつづけ、然か 君の生 恋も 生理的生命は死すとも、その魂は私生命もなげうって天皇制暴力国家に 充 **たつづける** 0 です。 たち O L 心た 0

参をされると幸 下 で下車 すぐです。 中いです。 でのさい、 地下 地下鉄た 青山清 一丁目 か都古 バ田 ス君

政府

革命

に集産

総破壊によっ

て創出さ

れバ

た的

コンな

が

て芽を

出

し大樹とな

0

て大衆を

5

とわ

せるで

11 <

す

き

でし

1

50

でュ な 5 連合体 ı うか 労働 券 0 要 否 を 2 0 \* 決定する 0

学か 〇四 0 \$ 石 金 開 III 月二八 銭も貴 5 拓 ク 帰ら 岩佐 0 ニン クワをふる n B 重 でし た A 子 0 読 太 クロ 5 書会で て戦 さん わ 闘力を ta 3 ば 0 ん・キ なら \$ 1 7 2 話 U 確 L 保 な を 2 T 7 9 パした 50 立ラ か つ テ いと思い 先 2 一分 から ス L 達 5 9 幸 T 0 0 Ĺ 時 スペイ 未 ま間 踏 すっした 領 大杉 ン見 域に 円

には す。 6 スペ 合 相愛の 直視に 5 未知 1 不知の人々の間で 男女の たえぬ ほどです。等 表 現は 愛の流 \$ 日本 親 愛 のあ 動す カカン 5 2 5 3 和気に つぜ さつが交わ 2 満 \* ちた。 to さ 旅 行れ 街頭 重 者

5 5 幸 、こんどは十人 を対等の友人とし A子さんは以前の会合では内気 L た。 ば T カン 5 5 0 3 5 山 0 3 to 人 話 な 令嬢と の女性 しされ教えて 拝 な 0 3 vc n 1 ま だ 私、 L 3 たた

は性 スペ 誤 を連想 女七歳 付 イン革命にアナキストは敗れても、 総破壊しなけれ 心するよ VC して 5 席 な封 を ればならな 同 建 9 せず 的 観 نے いと私は思 念の残存す カン 異性 自由の根は厳 5 3 0 友好 まし 日 本 を見 た。 社 会 0 T

五月 1 配布 to 一日 ٤ 19 y 1 フ販 デー 売 中央会場に黒色旗の一団は 元の種ま き 運動を万難を 排 L 1) 決 1 フ 行 V

運 0 なるほど思想の純正は 五月下 動 ズムと誤認さ 黒赤半々の 史」を 旬、 刊 窮迫 行し 0 ない の中 ます。定 から石川三四郎著 守らなけれ 7 \$ to 価千 1 5 か。情況 声。 ばならないと思い た。アナ が困 「西洋社会 IV 難に 7 . 7 な ます。 れル 主義 ば

0 L 0 分ほど歩く 資 路 ととは国鉄 ます。新古 務所を移転 五月末に東京都 の角 力の 坪 半たらずの から二軒 小 い証明ですが、 本の 4 蒲田駅西口から東急蒲田駅ガ します。そとで読書会や地方同 中めの小さ 土地、各階六坪弱です。それ 書 大田区西蒲田七丁目六一番 ガ 店や大衆飲食店の開店も ド下商店街が倉庫どお 熱情 5 築の の結晶 pц 階建ビ でもある 1 地に IV 6 4 計 志 になる丁 は私 ので C 画中です。 0 す。 合宿も 笹 塚 す た ち 0

(七四 · 1 = ) 近く

VC

小公園も

あ

、おたちより

5

ます

### X デ カン 5 0

倉 辰 次

麦社解散後、 私は単独 で努めて若人の集会に参加し

T

きだと替 旗を立て へ宣伝し あっ サンジカ ても折角、青年達 て参加 成する ようという意 T IJ スト 事にし を となくその気に 求め ら、今年とそは た。そして一つ の行動に水 見が盛 to て、 出来る b あ な 小をさす行為: だ から 6 x け新 0 0 た。そ 会合でア 何年 デー 旧 参加 \$ 0 は慎 P n 9 の熱 ナ ナ から カン で + L 徒 スむ 意 7 労 1 べで 黒

持って安来等と出せばメー V 近 で 市止 藤憲二さん せばメー 九七四年第四十五回、東京メ 黒旗を て安来節の させ た事 持 デー \$ 0 T 健在 があった。アナ連とクラブの 蛹 りに 登 会場の舞台 で、 0 てお 腹を据えか 会場広 5 で前進 n 場の たの しず ねて全員で 思えば 座 高 S 0 9 1 松の 役 かいて 懐 者 では かし 木 分 怒 達 黒旗 あ 裂 鳴 から 0 0 き時 たの テッ 以前 り込ん 花笠を 下 代 ~ で 思に

- 4 -

フ 毎 年メ の司 V " + 1 会者水沼辰 デ 1 6 をや VC は 夫さ った P ナ 連 てん Ļ E を 人 大 L 々に教 正 T 参加 九年 えた 0 L 日本 てビ b した 第 ラ撒 1 0 き x 1 13

反響は さん は黙々とピラを撒きパ 今 年 少なく 0 6 x 1 ともの デー を プ VC チ撒 初 ンフレ 80 H 参 T ッ 5 加 1 to L た若者た を から 、大島英三郎 売 って ちも 5 た、 2 た 氏 0 愚劣 とえ など

された福田氏の合同労組 感激させられ 顔を見 ら間 夫 2 だと思われた。老生は た。 人 0 \$ 如 て激励に来て下 なく運動 1 老齢に た。 九津見房子 最近 カン な 5 v 2 の若者が 遅刻 リゾく さん 0 さるの T 方 B H x VC して折 は、流石に 最 1 と姿を消 逢 初 n デ 立って えたな 角、富 1 は過激な言 VC か 来 L 士市 運動経 T 0 T た ま 若 n 0 カニ 動 14 5 驗 5 5 をた

上京 0 人 0 L

年 H VC な は

輪 0 ritri 755

# 論

白

は首 高揚 5 n しない て、 長選挙の時に H とし 5 T n だけ いる ばそれ B 七日 りあがるのだろう 特殊な場面(た L か はなぜだろう L 0 をが議 ら、地方の議員、ある 院議員選挙の渦にの とえば か かっ \$ 都 知事 Ļ 2 選 るみと れかを

は何 VC 2 本質的 だ L ろう てさら らには な カン 違 5 から あ 3 方と中央との政治 0 だ 3 5 か ある (ある 2 す nn ばは それ

なの 政治 地 だ 0 方 政治 ろう 方 から が 重 要 中 中央政治に で あ 5 そして身近 であれ るる 5 0 とは 0 証中 左央

はどう 23 T 5 H る。これが ろが な 7 ってい 今 2 3 は市 L のだ T どの様 民運 何 3 を 5 20 動 さし か VC D 噴 L 出 T T 現 5 Ł b 3 5 のれわれ なに 3 3 時代 5 \* カン 0 理論 VC 突入 現 状 的

首 2 論で たとって最 の地 は、 方政 未 \$ 府 熟 のので なが 0 構 50 あ を 0 もなは 構 5 想 す L n 10 だが T 5 2 ろな 0 た問 < 9 が。 h K と思う。 叉 答え、 同 さら 期時 \$ 待に 多数 5 VC ろは

したので、ご思 したので、ご思

立報告いたします。 ご報告いたします。

\$

0

T

解散

5

た

一九

七四年四月三十日

麦

社

各 你

- 5 -

共同体について

三浦精

どっ を求 いだ 先天的 き方 徒手空拳をふる い能 た集 0 0 0 た 0 H 0 を 80 だ た 0 法 I 団 T 3 Ł るだけ て合 考 3 ゲ 5 則 5 VC 0 で でどうにもな さも き方は にし とす 200 自由 きな た 3 え、あるい 5 カ を考 b U 理的 V ところ る。 を ですまず、 1 た て、 い宿命 を要求す が言 える ふる が 美 2 で、善も 悲劇で ع T L 国家に である 2 は詩に 反逆し が をも 0 9 5 5 らよら て群 1 なら ので B る。そし な 青春の 社会の不合理 なけれ ととも ある か あ 0 0 5 絵に 5 ば は 3 たり、 な現 宿命 T 狼群 て批判 ま 5 うととは、 L ıſπ 象 ば に行 て自 7 だしも、考 彫刻に全身全霊 狼群や羊群 て、人間は個 である。この ぶんとして と何の かし 悪も 理路整然 動するだ Ļ 分 指 に抗 な た ての いだろ 導者 2 ち ワ えも ~と在り る b 0 0 L つとき、異性 生だけでい I け よう 抑圧 " 8 つく 0 重 0 VC らとする うらっそう 世 な を だ か 方、生 呼 K をは ず 5 た 0 0 識 カム 0 イに引指 VC た F. を持 た n る お 善 本 ねげ 5

> 合 5 立. 5 は わはいいに C T 3 0 人間 が L B 問 不 スフ 0 て、 世 理 L して歴史的 そ 的 そ た か わ ٤ 幸 合 VC 55 問 は 居性や集団に は 5 1 n う。 そ 0 合 ンクスが立 本体 羊を 0 われ それ 何か 理的 P 2 L だ 世 \$ しい。自分自身がこうでな体人への要求をもっている ~、人間 して が たら答 とも答 なも 探し出 VC X2 n ことを 考 0 0 時間的に そ える 0 H T な口 立っている。お地な合えたい。トポト ついて 5 え ٤ VC 7 す 5 のだ も行 なく は何 200 はす 問 to T が、一匹あるのだ 9 do 思考を O 别 か て 0 かいい ま T VC っない も良い 念ながら の言 だ。と ず 自 ない。と だろら 分 人 VC かにに めぐら いると言うの 葉で言えば ح 0 0 あ ボ 0 nK 9 生 さんの方 あるべき と歩く 6 7 6 か VC L 命 そ 答名 なが す な 2 た 0 n そ ことを T 不 危 だ た 平面 人間 科 5 n ね 合 合 険 H 間の前にならな に手 学 だ 理性 理 す で 的 的 自 から 力 7 5 は を合 を VC VC 分 V か 犯 す か 心 to 1 不 诵

> > - 6 -

6 定 b n to た b B 社 n 定 会 は ス 100 一枚 を打ち破るところに生命の躍 の画 た て、た 応 6 を 一個の造 合理的だ 0 する 一つしか 生命 と判断 型 VC を 表現さ 感じ な する者があると 5 動 たれ 一命を叩 正 た線 5 \$ する VC

3 つけ T o 順応 5 3 もす が是 る。自分の限界を知ってあきらめる者も勿 か、革命 が非 か Ž, 人間は常に 岐路に 立 論 2 10

×

社 で いのいィれ部 た社会的 一地域 あ 0 VC 3 人間 3 族 to 接 0 (共 2 ٤ コルゴコ 会集団 観 触 7 \$ 7 5 0 念が成立 で、 同 社会集 0 . ッ 0 計画 を言 交选 +1 た 体 人 と区別することので -地 ティ 的 5 L Ł 緣団 々がさまざまな生活様式 ヴ し、とれ ので、 合 ア は、 T P 1 血縁に 5 ソ 1 - は村、町、 v は、 結果、そと され エー 無 意識的 との人間の結合をコミュ よって によって他に 的 たものでは には i 9 な共同 に共通 地方 きる特徴をそ ン(結 結 村 ば 落、バ 5 n な 生活の 同 をも 社 0 たも 様に った共同 50 깔 シとに 0 慣 0 一定領 なえ L 7 と考 P して成 伝 た 分 領域に た生が活 ニテ 統 H えら 立や T

のある 1 2 つあ n 5 1 に対 0 一つ以上 3 内部 0 成員 して 2 = あ は コ たちを結 - つ テ るい P ソシエ成 1 0 以上 は = 1 J テ 7 11 0 111 心び、また 、ュニテ 1 生活を基 1 コ -2. V ニテ 0 3 ッ(結社 1 7 11 一礎と = 員 1 1 ま 0 1 、ュニテ 1 12 L 結 を は成 て、 超 じは、 2 で成 えて他 員 1 コ 11 立 コミ た ちと他 の一つ とコ - -する 員 テ B

> VC り、組 ある 対し 7 は 織 的であ ある アソシ 3 0 エ によ 1 って結 V 12 9 から ンは人 T 自然 為的 機関で 3 的 B 6 な 0 で、計 あ コミュニテ あ 3 ある 的 イー

はシ 牛 な 色 1 テに 註、コ 5 3 フ 盟、会社 A ラ 社 ス T ナ 結合体をさす Ħ V V 当る 1 1 おり、イギリ ルと言われ VC 3 会学用語として結社のソ(連合、連盟)もも 集団 ンはフラン スで // n 訳 OTW され やその連合体に、使用され Ł は ニテ てい 行政 5 T の有名な国 0 ュンと言う場 1 た具合で る。結社 いる ス語 的 スやオー 1 な単位 は \$ 英語 0 P 0 幸 20 際労働 協会、 ソシアシ スト 訳 た ある。広い意味でこのよう ともなって だ 良 合は自治 語 から トラリアなどで、アナーのアソシエーションを用労働者協会(インタナシ く使用 を使用す フランス語 組合、連 才 され る。フェデレ いる。 ン、日 的 な町 る。 3 0 合、連盟、 P 本語 村 7 ح ソ 11 を では 5 W 言 T 1 I 5

して分け とし 2 5 て、 V 5 + ま 5 ク フ た 十 (共 た n 1 結合関係は古くからテ てい 米山 IJ 1 る。 八同社会 によっ 俊直は 基礎社会、派 一)、ゲゼ ては第一次 人間関係 IV ンニー と人間集団と 派生社会とい 第二: v + フト スに 第二次集団と 利 よってゲマ う分け方 5 ら二つ 益社会

3 様 5 5 付 あ \$ 6 3 is 5 らろんアソった三つ ノシエーシンの結合方 1

えられる会と 渥 00 VC T い考 集 4 乱 え 成 < から S たら長あに 念 5 めれし っ対 を ようとすが 7 てた で . 9 あ 5 現 る to VC す 3 コッ 国在 b 0 る 多 家 C 0 左 VC はは名 L 前 T い当 整 然 が考テ 5 理 L 察 1 もで 適 て、 用 0 L 1 よ 7 のま さ 社 れらア 在た 必会 たと 6 V す 方然の 6 るエ やの中 もにそ 01 つれはシ 0 社ン をの < ir 1 5 1

ラ化とたこあ口同 玉 n りッ体たて 7 家 は パー 自ア機のコえ っで ィった行と学体ソ関 諸ミば E V 民 政れ間 \$ 6 21. を = E コエあ 本 to 的 15/ 3 1 テ C H VC 3 経 0 洛 1 -亿 本 \$ 2 2 コ 3 なに理 = 9 的 1 テ っつ解 3 VC - 1 から 7 たい Ł **=**1. 結 0 0 L 1 名ッ ニテし T E 1 L I をパ 考 と考 て考 農 5 S 的な、これを思 も経 ィ 統 元 5 合 溶 L 1 0 て行は 7 うらべ 2 た共 L 同 善 と 同 0 色、 かれ L 政じ 1 的ない。これをいるのでもののない。 5 の体 える ミあ \$ 6 構 単 自 ば n 生 位 - Z のあ はあ る 3 と的ン 0 r で 3 的 3 なながさ あ b 織 な ま のコっ結フらる 6

> 6 てが 破あ あ 6 3 1 nc 為 T ゆは P と言 わ ta 0 ばなれ村 たアソ 5 左 S シ的 工化 経 ョン 済

とない 業組 協 b 1 庶民 支 同 為 さ 組 世 西己 的 合る 者がた 合 が試 40 \$ 法 権 行の 的 力 錯のな 誤 中 組な機 合ア構的にの のソのにわ I シー組れ うエ翼 織わ E な 1 しれ もシレ てはば D T W く生 を > 法 区と 的 P Ė L VC ソ て すて組シ 行 るの織エか 1 12 現 L シば ま ョな 0 to y 5

をいい地 VC VC 5 や か VC 進 義 VC 行 羊 VC 交易 従 移 化 者 順 0 路たる 共 す n VC 集段 で は所事 す 3 カニ 食 L T 節 わたあ 定 8 例 0 盲 3 C の階 Ė 0 世 りる 2 あ 信 5 B 7 L 由 農 3 あは はか T IJ はにス地 収 遊 りな 5 \$ T 牧畜も セン ・アメ での自 地縁的 穫 牧 進 4 VC は後の 行化 合畜の途 6 L 次業 業の冬季 わ糞 農 IJ 境 5 然に 7 環 集 エいせ を 地で カの VC の変 境落 りるた落 化 通 I Ł VC 人 天 過 夏 I 化 牧 L 5 を 間 幕 すに季 らに応い よっく 5 7 N 5 0 W を る定に 部着 移 牧じ \$ < 張 6 7 L 牛 畜 っ落 りた活 7 的動 T Da 毁 To 業生 人の いてや で L 農 5 リっ落町は T 階 業 7 か C な B 0 ズた 穂 0 生活 をたいく全ら段階 たいく 全 段 クや 5 L ス牧

化続上なのマ浪 p けの 5 ら変 権 ド人しカれ化定 族 変 者るが着 115 が 順 する さ 考 VC 7 移 にるうでもえ動ら 国しさの vc n の事境たえ 0 to 0 リあ 游 5 5 る設ズれ 牧す 0 T  $\exists$ ムば 定 仮 遊に、考破に る説 口 はボ 4 3 一の今 1 19 られのの B 丰 VC b な . 侵 ると IJ す おは 入 しょる 澎 ア L 2 T 7 ジて TAS プ 気をのし P 来 シ境 候も T 内 1 のっ地 動 ゲは設 陸 変て球か部ル 法

畑北考 イえ定 0 7 る着 広 日のていのも T し本中一土バーる農業 る業よ を 0 IJ コ持ア と 従 ミっ族 = 7 は場す 合 落 前 \$ 0 中 化优焼 固似畑 定農務業のれる C 地 動 から と周 的先 で行 辺 あし VC るた 焼 Ł

もれテ定用 ر ح 3 ィ 着 L 人の 限 Vて 数 を新 4 超 田家 えとのニい集 た呼数テる の場はオーと言 分も 土ったる 0 りでがのる 見らにコ 左ミ n

ら村 0 同り る 0 to 寸 村は 3 と人越 VC える h H アと神 VC た 年 B 80 行 H I E K b 0 n た作のるのをわ 交 VC 歓 民 を 衆 0 祈 村 P と教 は、あ多生場合 あ あ E 2 4 to VC 3 気 う 見 や災 あ -1 7K 0 = し利てテ害 る 右 ュ

> 武行や 0 ざに現 は 豪わ t 族れ 6 とる 1て取 な 外 6 り領 力、 な強 ら盗 主そ なは か武 7 n なは 2 + でででのでのでのであります。 たの 央権 と言 力 わ れる結で CX あ I うつろ VC Vs 5 T

産 会 境 な 族 共たれ間在も 2 はやす・・・ 通 まはので倫 7 2 協氏 5 あ 理 のし知知は理 + る性 同族 風 史 種 い性 性な . 9 習を 的体は的 ヴ 2 お へややい社ク 3 働 ァ言よ 枠で政 言 プ意 · 会 · × 意 と言 あ 組 1 9 U 組 あ治 創 シ志 志 · 的 7 合、 0 道 り ケ の の . な実り 0 る社語 会的出一決 マ徳 a 山 決 協 学うり的に協 0 元 定 同 在ン 集 す 定 7 会 アタ 力生 同の団働 共化化体 では in it ソンへみ体古出は 道やら通 か先にあっ 出はを社 3 5 社 きのか立つっ協 エと人し本語を情 0 会 わっいて同 7 りてて シ場いもお 級るおないはた 治 0 あ はたと 合わのよび そはのよく、 る 5 0 ∄ でが、共 . 7 ・なる 事  $\Rightarrow$ るる。遺到同ある理 0 政 を 会る 実 意と で 2 通 5 団味い 徳 ve to o で・学のあ 者 0 しら 対 所 前 体 あ・ 的 無 っ目学は \$ て言し し与触る・構意 て的 葉のうのれ は 造識 同 to 。地 は 1/2 な で所社環を部方 9 なと人実れ

T 10 to 1 5 9 ウ 0 1 などが 同 考 国家はア 2 方 -あ ソシ 工 1 V 1

×

はべる中リ 用にこ n 110 ス す 1 克 \_ 10 7 1 3 3 T つば 0-ONV L 教 全 JWI 7 信 0 致 1 O がコ仰 あ 0 界 T 7 2 鐘 描ミ を 3 中 0 5 2 VC 教 3 = 00 テ音 コミ 拡 to 二 体 会 17 一才と 大 0 1 さ信 1 仕 PY L = 話 = n VIC 仰 To 事 to E ヨテた あ 0 37 結 0 力 る手 ェば 1 1 コ コ 11 をラれ 1 スた 껠 IJ 休 9 0 2 21. 概 = = 惜 9 0 人 18 80 テオ 7 鐘 h 0 念 T 仕 思 の町 -1 1 会を 0 集 村 舙 1 \_ 3 1 絵 団 6 原 の聖 様 H を を 的 概 体 式 意 念 拝 VC 00 の思 教 会 差 0 集 5 味 B を 領 落 浮 すを 適 \* + ~

ラ 2 5 Ł 村 VC Ш プ 1 盛 T 家 忠 す L 教 6 7 氏 7 あ は 族 7 老 7 IJ n 考 のは 中 3 克 L スは -コ 5 VC 3 T 1 プ 5 届 n 異 = ス Ł H ラ な 0 4 壮 H To 5 to 社 to 的 宗 슾 ち 3 あ きない きない 宗 教 VC 族 教に暮 は 属 す を T 13 1 すし 最 3 0 他 7 親 7 スも 初 者 由 宗 0 F 0 VC VC T 生 から 7 住 一教 生 的 n 1 5 ~ のは 左 スた 3 B 改宗 名 ラ 家 5 7 4 宗 教 前 カニ 7 To で教イ はの はと

> ィ・コに情にて のるる <u>ل</u> 1 鳴 C がが 緒 厳 あ + . ラ 0 75 われ リ然 エン 響 あ コタ 2 書 ジで < 2 T プ た いス Ł ラ T 結 ラ 1 存 プ な to 5 在 ば寺 1 かる VIC い教 のは 6 徒 L VC れの 5 Ш 74 は T 鐘 ^ T JWZ 0 7 W VC 0 プるのるあ コお昔 IL は五 1 1 がよイ to 寺 今 の 氏 はつの 5 る ラ 00 でも ス 2 VC ラ 0 ン鐘 H B ス のコれ 1 4 あ 0 が本 7 のか 7 4 ス教ろ朗 ないて 5 同 プニ ラの う詠 3 吐 耳 あ トテ時 4 7 C は 0 化 教 4 さま Ł 底 0 1 あ = 0 さ 0 VC 中专 少 徒 S 存 数 のテ 故に 5 童 5 73 25 生 5 4 謡 在者 7 1 郷 活 しでム 5 0 專 0 6 7 ては二あ そ故時 - 2 VC L たいあテるは郷の節

00 J 方、 宗教 3 自 危 中 6 23. 機 と人 人 災は を 言 = 7 害はじ 間 诵 莊 B 間 から L な B 共存 0 0 7 T 病 80 1 間 から T 0 存 苦 呪 術 0 大 so to L 在 VC 7 李 つか T 対 Ł 浩 L 111 たわ行 た す L な 6 3 T 地 1 B 氏 二域 7 な 生 0 解 T テ だ 族 E 釈 VC L \* や部 分 を 方、 0 成 1 T 共 た 解 世 3 1 布 Ł から 族 す 通 界 人 決 n 3 間 とも 年 0 3 0 の次 治 I 7  $\exists$ do 信 しカ第 VC 9 仰 6 古化化 TOK E =2, = \$ 結 持 to 人 L < てテ な ば っよ間 たば 人 1 0 0 n 世ぬ在間 to

×

ども 的打 2 T 妥当 な 民 5 要 説 族 9 素 VC VC C 5 を 対 L は あ た 老 き す 3 1 T VT 3 観 5 U. 5 T 点 n L 征か VC ばい 服 1 3 物立 決 批 VC 1 よウ 3 つし 判 芽 \$ P テ T カミ 2 N 的 否 0 加 T 2 左 ソ と言 タ 形 ヴ \$ 定 V 7 5 成 T 0 I れさル Ł え き 1 部 るた T n 1 W 3 3 10 W は 3 2 る 玉 ح V た 考 家 ٤ 东 は 騎 0 馬 të えがは 1 一民 民 から to た 族 は 2 彼 説 生 族 た 5 左 態 O O L **に** テ が

0 C 寸 は いに族 T は 7 5 た 5 な 家 П 人 族 ポ 7 間 類 3 5 5 ラ 1 VC はの 連 聖 社 先 + 7 \*\*\* 准 会 行 干 14 書 7 0 0 77 VC VI すは 0 動 段 胚 書 度 年 人 3 か間 2 あ 階 2 史 界 C 0 かれり L 3 生 カン 5 て前 T 0 行 活 事 見 by Da to 一実 깝 L 部 れる 5 存在 慣た 族 家 人か VI 5 決父 間 な 父 L F 長 帰 L から の系 的 社 納 ラ T T 1 す家 古 な い会 L を 族 父 る 7 ~ プい て制 1 系 の創 0 あ 家 だ造 が以 は 前 3 言 族 \_ L 間 と言 達に w & は to 0 过 左 の集 -

は ばで VC L b 人中 n か間 すわ がいれ の家が日 、本ク人 族 団 \$ つ ラ は 6 インす あ 0 ( 3 5 1 意 源 味氏 VC 0 は -識団そ平にとれ氏

> 的 か 集 よば 系 団 0 n \$ 譜 T T 比い 氏 較 to 的も を 族 大の 考 部 \* を 充 く、ゆ 族 3 意 以 以前の 味 す 前 るく 30 2 \$ のれ結 合 3 ラ E L 理 場 1 合 たブ 文 (部 さが 多 n たい的族 5 民 は 系 族 氏

念 係 社 to 会 0 がけ 7 口 基 3 を 2 -古 理 盤 + 契 パ は VC 地 機 S 氏 1/ ح おの E + H しは 2 共 族 L 1 深 VC 3 同 的 T 形成ある 地 占居 元 部 族 一族的 2 ٤ 縁 大 す 的 移 L 動 7 る JU 共 3 5 同 を 頃 確 形 社 固 7 考 VC 2 口二 で 会 元 Ł ポテ生が L to トィれ崩 3 to 基 1 P + 1 to 壊 橳 1 -L ロジ はが 0 8 2 T 2 P あ 歴いの新 パ内 後 社 3 史 0 L 部 to 0 5 会 ヨ関にの 概

方神 を 氏 族 3 聖 5 べの的 人 P ŧ I F な部 ら、そ L 族 数ら解 0 世 VC T 神 聖 紀 别 7 5 4 0 には間入 L た入 不 さ 0 5 T 0 口 n 来 JII 欠 た 小た も 7 ... な 連 1) 0 絡 .... ス丘 = 体 テ 1 7 教あ L 1 はそ T 1 5 存 その 在 の森 2 L 0 た。 0 々 地

た th. 民 る 通 n りた 6 E VC 7 探 僕 广 0 \$ 然の T 1 VC 5 世 3 界 00 0 各 ら者 玉 ボ 家 地 n vc 3 E のにキ 中 力 2 1 \$ 7 で 国は 生 家 知国 れ家 n を 相 持 互 なの い存 教 た扶 す 助 が在 音 さに論 は な自れ生に 成 ぜ明 きも 見 K 0 T 家と長来ら

とや民 類 T VC 6 0 幸 To 成 課 p 題 0 布 6 なけ 存 会 変 在 n ば 左 T 5 \$  $\mathbf{K}$ H な とは 5 2 L 5 体何 は VC か b to 仕 n H な 3 現 b 実 か n 玉 家 VC

統治 N E 2 L に ま 6 5 0 ば 玉 た の形 ク (社 家 他 カ 5 L を 式 5 3 観念は ば無言く 0 过 方 0 术 存 TC あ 会 由上 7 n 活 在 13 種 b する 0 付 0 0 + 家と統 と偶 5 DI -0 -7 れ 類 \_ 2 T 2 つは 5 機 あ 0 な 玉 3 能 治 概 来 7 家 発 5 VC 3 S た。 であ を含 念 は h 0 7 5 7 0 的 调 だ 存 Ł 多 觀 5 5 75 統 な ぎ 家 念は 1 L 9 冶 \$ 在 5 5 あ 0 か な は だ 観 7 歴 9 T 5 T L 0 3 か 0 5 (国家 念とは し私に 5 混 5 T 5 \$ 11 思わ 国家 目指 同る 0 で単 7 0 が VC な n は 0 1/12 含 1 社 カン n n な 程 2 -ある 会の なり とを 一、地 廃 ま 3 K T 5 2 ta 0 n の家 来 VC 11: ば 社 上 别 涯 域 ٤ T \_\_\_ C 7 な た な 会 会 5 部 Ė 位 0 あ 統 は 5 同 ぜ 75 3 中 VC \$ 冶 なな 永 0 0 る 統 す 着 者の手 央 お 0 O VC 5 5 治 3 久 は二 か を 玉 ٤. 0 2 集 0 員 な 的 含 o h 権 n 家 は カン 左

5 ح 2 訳 ス ヴ Ł x 3 ヌれ 7 T y vs 3

> 5 自 葉 5 C 治 0 冶 气 0 10 た は VC F と訳 動 あ 秩序 考え 5 3 以 ク 5 支 70 詞 0 0 下 口 さ 0 5 訳 ある ポ n 1 \$ VC ま n 3 展 VC 3 1 To 0 を か 2 5 Ł 傾 開 + セ 採 5 は 0 2 2 2 す 向 5 3 IV 0 統 れが フ 3 7 か から to 5 を 3 5 5 7 5 3 0 つは 人 0 \$ 7 b It vc が分り 理 H 類 1 訳 治 家と 学者 解 たガ 普通 され ク サ U L 七 VC 統 T IV 7 VC VC 3 治 P 治 P フ < 1 は 政府 政 F 2 5 · > V + を 中 いガ Ł Ł 府 1 X たグい 思 から 5 P 7 = 国家 せず た考 别 5 b 5 T 0 L 1 ح n 0 そンのたのも VC 管 充 to のが言か異同統理 2

3 0 あ す VC 3 ~ VC 7 \$ だ T す 슾 X は 5 な T か 0 統 0 别 10 5 治 社 を考 過 b B 山 工 6 形 5 会 + 玉 ス 民 加 態 VC 充 2 0 家 + は 理 から 族 た 統 を E す す ح ح 0 制を 山 持 1 3 な Ł 何 0 方 6 2 VC b 5 1 r T 法 P L 5 か 重 5 0 や形 要 VC 0 5 S ても 0 VC そ 統治形 T な な b 7 玉 1 の社 5 玄 式 意 家 to 3 味 E から 2 自 てブ 態が T 0 分 \$ 2 あ 슾 カニ 統 冶 6 to V 3 6 あ 0 あ 存 あ 5 7 VC 2 3 0 る 出 在 存 3 C 7 5 0 種 00 셌 1 5 来 す Ł L 玉 理 p 5 事 3 0 5 家 す 統 F. Ł を カン 5 概 0 る 冶 グ 6 5 念 0 な形形 ミあそ ではの

える と言 T る n は 者 か 0 0 ٤ 6 755 ح 755 3 どの 平和 制度 方向 とろ あ る。 6 0 社 る 。その 1 とも \$ VC あ 会 VC T 3 生存 K 5 3 0 老 **#**T な 中 家 種 から 充 な 5 形、 しよう 実 0 で る 5 出 ^ 現の n \$ さ 0 5 居 どの 治形 かに 動 n 萌 3 0 仕方 芽と で る。との統 Ł 0 あ 1 態 生 する 7 T 見ら が民 b 5 カン あ あ な され 限 る な L 0 族 考 り、さら で 2 n 治 VC 充 は済 6 3 ね 0 ばな 方 古 形 B I 会 定と固 態は処 で 0 0 幸 実現 T は 5 VC \$ な L 千 てニ 生 5 な 理様 定 差 3 た 5 人 0 万 n か 個 式 以 て題行は の自 打  $\pm$ を な 别 1 家 C 老 +

あ

くそ

由 0

N テ N 1) 口  $\mathcal{V}$ 

1)

水道 過火曜日 橋 喫茶店

終着駅

着駅 T E 1 (二六四1 九 五.

# 告棄却され

未決 幌地裁 3 判 0 拘留 H 決 に対 で 期 第 実刑五年 9月9日に起っ 一小法 H Ļ 則 か 55 一条三条 を受け 廷 高 0 日 VC 裁 な VC た清 及 を 5 L た北海道庁赤レンガ爆破 算 告 T 水君 入 L する 清水 ていた 法六〇条で は、札幌 判 君 が 決 0 上 を 最高 行 告 高裁の 派を を 2 た。 棄 裁 事件で 却 は 控 n 5月 訴 棄

公判 公 充 北 が地 \$ 5 T 何 0 を 裁 0 追求 段階に らな 争 70 2 最 吐 0 大 を T 0 す 上 2 を \* B ちん 理由 VC 3 n お か ~ ず、るける IV 被 発 2 5 物 世 だ Ł 5 2 x 公判 さえ 斗 2 た 2 一方 9 to 3 0 S ~ N ことを で 権 斗 える T から 80 力 争 内 x \* \$ な 0 n 側 " 及び 分断 ば 0 カン 1 強く か 0 0 な 5 から ひびる to それ 策 李 は 0 動に か 行 な 力 ح E L を支える救 割 2 猶 W VC な 対 充 九 予 0 弱 れ から VC すけるれ して、 P ح か 6 5 あ ح 5 ま <-ば を 0 5 0 を考らなら 完全 対活 考 だ て、 統 軽

0 な